

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	グループホームみどり		
所在地	佐世保市中通町17-22		
自己評価作成日	令和4年12月14日	評価結果市町村受理日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年1月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台で景観がよく各居室も本人様が居心地よく過ごせるよう環境づくりに努めています。その人らしい生活リズムを大切にしながら、少しでも寄り添う介護が出来るよう支援しています。コロナ禍の為、外出も車窓ドライブのみの状況ですが、毎月の行事等を開催しながら楽しく過ごして頂けるよう全員で取り組んでいます。又母体が病院と言う事もあり医療的な面での対応が充実しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの窓から見える風景はユニット毎に特徴があり、しずくユニットからは桜の花など四季折々の庭木を愉しめ、つばさユニットからは、佐世保港や市街地が一望できる環境にある。当ホームは医療法人が運営し、建物の1階に「介護付有料老人ホーム・ショートステイ」、2階に「グループホームみどり」、3階に「デイサービスセンター」を併設し、法人全体で連携体制を整えている。運営母体が医療機関である事から入居者への健康面に対するケアが充実しており、ホームには看護師が常勤すると共に主治医による定期的な訪問診療や緊急時の連携体制があり、家族の安心感に繋がっている。更に入居者が看取り期に及んだ場合は必ず職員勉強会を開催して職員の不安を軽減し、主治医、看護師、家族等関係者と連携して支援に努めている。コロナ禍で面会制限が続く中、毎月の請求書発送時に合わせて入居者の写真と共に日頃の状況を伝えており家族の安心や喜びとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 しずく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさを大切に生活の理念をもとに、常に意識した上で介護に努めている。個人、各ユニットの目標を立て取り組んでいる	ホームの理念を各ユニットに掲示している。コロナ禍以前は、朝礼時に全職員で唱和していたが、現在は感染症に留意し、職員が大きな声を出さないような形で唱和している。理念を基にそれぞれのユニットで目標を立て定期的に振り返りを行い、理念に基づいた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況の中で交流参加は出来ないが、情報の共有を心掛けている(今年公民館祭りに作品出展)	町内会の清掃活動に当ホーム職員が参加している。近隣住民より困り事があった場合には電話相談に乗ったり、回覧板を持って行った際に話を聞くなど地域の一員として住民からの信頼も厚い。コロナ禍前は、小・中学校の職場体験等を受け入れていたが現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の報告書にて、研修の資料を添付し、他事業所や、包括、町内会の方に情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議は実施できていないが、会議の議事録等送付している。(事前に文書等で返答もらい取りまとめて文書化し発送)	コロナ禍により、運営推進会議は書面会議としている。運営推進会議の委員である、自治会長、包括、ハナレイ倶楽部(施設の有識者)、家族代表へ事前に会議の資料と意見を記載できる用紙を郵送している。各委員からの意見・質問に対するホームの回答を議事録に掲載しており、議事の経緯を分かりやすくまとめている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市長寿社会課には、運営推進会議の内容提出、介護保険の更新、変更等書類の手続きで色々対応して頂いている。包括支援センターは、運営推進会議を通じて情報交換などを行っている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、研修会の情報など様々な情報交換を行っている。介護保険の区分変更など書類の手続きの問い合わせや相談など行政との協力関係を築きながら連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、研修会にも参加し、情報を共有し取り組んでいる。	ホームは「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、3か月毎に身体拘束排除委員会を開催している。定期的に事例をもとにした勉強会を実施し職員へ意識づけを図っている。職員は身体拘束の3原則「①緊迫性」「②非代替性」「③一時性」を理解している。現在、センサーを必要とする入居者はいないが、センサーが必要になった場合も家族へ説明し使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、フロア会(勉強会)にて、話し合ったり学ぶ機会あり。又意識の向上に努め日常業務で気をつけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中で成年後見制度を利用されているが、職員全員が理解しておらず、勉強会を設け実施する必要あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全てにおいて説明し、不明点は伺っている。又、改正時は文書でお知らせし、面会等でも説明、承諾印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族の意見等も面会時や電話にて伺い対応している。	ホーム玄関に意見箱を設置している。家族が利用料を支払いに来所した際に、介護計画の説明と共に意見や要望を聞いている。コロナ禍で面会制限が続く中、毎月の請求書発送時に合わせて入居者の写真と共に日頃の状況を伝えており家族の安心や喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会やフロア会にて出た意見や提案等を反映するよう努めている。個別での対応も行っている。	全体会議やユニットのフロア会議を通じて職員が互いに意見やアイデアを出せる場を設けている。職員はケアを実践する中でアイデアを他の職員と共有し必要に応じて支援方法を変更するなど、実践に繋げている。	今年度よりハラスメント対策が強化されていることを踏まえ、円滑な職員意見の反映に繋げる為にも、今後、ハラスメント体制の整備に具体的に取り組まれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、資格手当の整備、希望休もなるべく取れるように努めている。常に職員が働きやすいような環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(リモート含む)に参加。研修内容を報告し全職員が共有、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に書面で交流又、オンラインにて参加、コロナの為交流できていないが、同系列の事業所とは連携し、情報の共有を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図りながら、信頼関係を築くよう努め、職員間で情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等で積極的にコミュニケーションをとるようにし、意見や要望をサービスに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺い、サービス利用に反映出来るよう努めている。場合によっては主治医、看護師、理学療法士に相談、意見を求め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で職員と一緒に会話しながら、ご自身で出来る事はお願いし、過ごしあえる関係を共にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会できなかった際は状況を毎月の手紙で説明、面会時は、ご家族様と本人様が部屋で楽しく過ごして頂ける空間作りを行っている。又病院受診等の支援を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会が難しい時は、電話で会話されたりしている。面会が出来る様になった時は、訪問していただける様支援に努めている。又自宅付近等ドライブ支援も行っている	コロナ禍により馴染みの方との面会を制限し、電話で会話ができるよう対応している。コロナ禍以前は同建物内にあるデイサービスセンターやショートステイの利用者との交流していたが現在は制限している。医師の判断のもと、許可があれば冠婚葬祭等に参加できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話、行動を見ながら必要な時は、職員が仲介し、談話を変えて提供している。フロア、各居室等場所にこだわらず様々な形で関わって頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも訪問してもらえる事や、相談支援が出来る事も伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とコミュニケーションをとり、その情報は職員間で共有(申し送りノート等)に努め、困難な利用者様の場合は、表情、行動等を見て、自分自身に置き換え他職員と相談しながら、支援に努めている。	発語が困難な入居者には、家族にも情報を聞き取り本人本位に検討している。担当職員が本人の表情や行動等を見て、他の職員と情報を共有し、入居者が楽しく穏やかに生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族、主治医等からの情報にて把握に努めている。又入所前の情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切にしながら個別でケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会と日々の気付きの中で職員同士で話しあい、不明点は他専門職に相談しながら介護計画、モニタリングに反映している。又、本人も交えた担当者会議を行っている。	担当職員は入居者の日頃の様子や思いを把握し、家族の意見や理学療法士の助言を参考に介護計画を立案している。個人記録には介護計画のサービス内容を実施できているかを○△×として残し、介護計画に基づく実践状況を確認できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態表、排泄表、ケース記録、バイタル表に毎日記録、申し送りノートも活用し情報の共有、職員間の連携を行いながら日々の介護や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化により、その時に応じたケアの提供が出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の行事等を通して関わりをもち外出支援等にも取り組んでいるが、現状は難しい状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診、ご家族が希望される医療機関へ受診できるように配慮している	運営母体が医療機関である事から入居者への健康面に対するケアが充実しており、ホームには看護師が常勤すると共に主治医による定期的な訪問診療や緊急時の連携体制があり、家族の安心感に繋がっている。他科受診については家族対応を基本としている。受診時は職員がケース記録やフェースシート等を持参し円滑に医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、毎日の状態報告を行い適切な受診、看護が受けられ、母体の医院とも24H体制で繋がっている為、急変時でもいち早く、対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関と情報交換を行う。また、家族と医療機関とのコミュニケーションが上手に取れるよう関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化や看取りに関する説明を行ない同意書を頂いている。重度化の場合も再度話し合いを行うと共に主治医、看護師、各関係者と連携を持ちながら支援に取り組んでいる。	入居時に、家族へ重度化や看取りに関する説明を行い同意を得ている。ホームで看取りを希望する場合は、家族、医師、看護師、職員等と話し合い、看取り期に及んだ場合は必ず職員勉強会を開催して職員の不安を軽減し、関係者と連携して支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成、皆が確認出来るところに貼り、共有化している。看護師による実践を踏まえた指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日電気類の安全確認を行っている。コロナの為に全体での訓練は出来ていないが、グループホーム内では行っている。消防署主催の防火、防災の講習会へ参加。又台風等の災害が近づいている時の事前備えや対策を職員間で協力して行っている。	コロナ禍前は、地域住民や消防署員、入居者が参加し合同の消防訓練を実施していた。現在は地域住民の参加は制限している。職員が入居者のダミー役となりシーツや毛布を利用した避難訓練を実施している。避難訓練後には、各職員の役割や反省点などを話し合っている。	ホームにハザードマップを掲示し危険箇所や災害時の避難場所、避難ルートを職員等が確認できるよう周知を図ることが望ましい。また、今後、BCP(業務継続計画)の作成と訓練を視野に入れて取り組むことを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー等を配慮した声掛けを行っている。一人ひとりの気持ちを尊重し、寄り添いながら日々支援を行っている。	コロナ禍により内部研修を実施している。年4回、接遇マナー研修を通じてプライバシーや尊厳、言葉のトーンなど共通認識のもと支援に努めている。職員の不適切な言葉遣いについては職員が互いに注意し合う関係ができています。職員は日常的に入居者に対しお礼の言葉を述べている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、意向を伺いながら確認、困難である方は、言葉かけを工夫したり、表情、少しの動作を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間等本人様のペースに合わせ、声掛け、表情を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の髪の毛の整え等ご自身で行う方、お手伝いする方もいる中で支援。又お誕生日、行事の際の洋服選び等喜んで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好を把握し、好みの味付け等で提供している。誕生日会や食事会ではメニューと一緒に考え開催している。	入居者の嚥下状態により、刻み食やトロミ等食事形態を変えたり、食事介助が必要な方には職員が目線を同じにしてゆっくりと食事が摂れるよう支援している。入居者の体調を考慮し、居室で食事を摂ったり、時間をずらして食事を提供するなど配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と飲水量をチェックし、食欲不振時には、嗜好品、栄養補助食品(高カロリー等)を取り入れて対応。水分に関してはこまめに声掛けや飲水の好みを伺ったりして提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行い清潔保持に努めている。異常時はすぐに対応出来る様体制を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのペースにあわせて、排泄状態を見ながら対応。排泄パターンを把握し支援している。	排泄チェック表を基に入居者それぞれの状態やタイミングに沿った排泄支援を行っている。職員は日頃の様子を観察し、排泄失敗時には周囲に配慮した声掛けにて支援している。オムツの適切なサイズや量を検討し、家族の経済的負担を考慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、クールソフト等の乳製品を取り入れたり、身体を動かす運動や散歩を行っている。又腹部を温めたりの対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者様の状態を見ながら行っている。柔軟な対応に努めている。	週3回の入浴を基本としている。入居者の状態や体調に応じて入浴日を変更したり、本人の希望により入浴順や同性介助に対応するなど柔軟に取り組んでいる。入浴後は保湿剤を用いて体を観察し皮膚疾患を見逃さず、感染予防にも努めている。入浴剤を適宜使用し、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて、居室のソファ等、本人が好まれている場所で、安眠や休息がとれるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細ファイルあり、変更等あれば、申し送りノートに記入し全員で情報の共有を行っている。不明点はナースへ確認		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の洗濯物畳み、お盆拭き等を行って下さり感謝を伝えている。誕生日には本人の好きな食事を提供。又家事手伝い、散歩、リハビリ、体操等はケアプランにも導入し支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は外食、買物等によく出かけていた。ご家族の協力もあり自宅等にも行かれていた。現在は車窓ドライブを行っている。	入居者が購入を希望した場合は、職員が購入したり、家族と相談し、本人の希望に沿うよう努めている。コロナ禍で外出を自粛しているが、車中から景色を眺めたり、ホームの庭先での外気浴や、窓から庭の桜の木々や佐世保港を眺めるなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて管理。本人様所持の方はおられず、必要時は職員が介入し購入して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時は電話を使用してご家族と連絡を取って頂いている。携帯電話を所持されている方に関しては好きな時間に使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを心掛けている(壁紙)季節の花、共有空間は整理整頓を心がけ気持ち良い雰囲気作りを行うよう努めている。TV等の音量、室温にも配慮している。	共用空間には2人掛け用のソファを設置し、入居者が寛いでいる様子が窺える。正月、クリスマスなど季節の飾り付けをしたり、入居者が作った作品などを掲示している。ホーム内の清掃は遅出の職員を中心に時間帯を考慮して実施し、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を設置し、廊下にも椅子を置き好みの場所でゆったりと過ごせるようにしている。又座席の配置もその時の様子で変更したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	つかい入れた家具、仏壇、TV等持ち込まれ、住み慣れた家庭の延長を感じさせるような居室である。くつろいで頂けるような環境づくりに努めている。	居室にはベッドとタンスが備え付けられ、入居者にとって使い慣れた物や家族と一緒に撮った写真、位牌等が持ち込まれており、本人にとって安心できる空間づくりができています。職員は毎日清掃を行い清潔保持に努め、これまでの生活を継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に氏名札を掲示したり、トイレにも絵や文字を大きく記載し、掲示している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 つばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼のはじめに理念を復唱し、実践に繋げていたが、現在はコロナ感染拡大防止の為、朝礼を行っていない。フロア内に理念を掲示し、常日頃より念頭に置き、介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流が減少しているが、公民館祭りの出展や町内清掃、回覧板、電話等で、非接触ではあるが交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、研修報告として認知症の方への理解や支援方法について記している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、運営推進会議自体が書面でのやり取りとなっているが、構成員からの助言を参考にサービス向上に活かす努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	清水包括支援センターへの状況報告や、当事業所の実態を指導監査課へ報告相談を行い、協力関係を築くことが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のフロア会において、身体拘束のついで職員の意見交換を行い、日頃のケアの見直しを行っている。また、定期的な社内研修や外部の研修等へ参加し、全職員へフィードバックし、ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会や外部研修により、知識の習得を目指しており、注意を払うとともに、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人との情報共有を行っている。日常生活自立支援事業や成年後見制度については、研修を行い、理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容全てにおいて説明し、不安な点や疑問点を尋ね、わかりやすい説明を行っている。介護報酬改定や、その他改定時には電話連絡及び、書面での説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、コロナ感染拡大防止の為、面会出来ない状況である為、定期的に家族へ状態報告等の電話連絡を行う際に、意見や要望を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会において、提案や意見交換を行ったり、個別での面談や相談等を受けて、運営に反映できるよう対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の修得や、資格手当の整備。職員の家庭環境を考慮した、希望する労働時間での就労に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の勉強会や、外部へ研修やセミナーの参加を勧めている。各職員興味のある研修に関しては積極的に研修へ参加している。研修後は全職員に対し、報告を行い、知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加。研修への参加。コロナ感染防止の為、お互いの事業所への訪問は出来ないが、電話やメールで情報交換やアドバイスをもらっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや契約時に本人の状況について、本人や契約者から状況確認、職員間での情報共有を行うとともに、本人が困っている事、要望を伝えやすいような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境や雰囲気作りに努めている。不安ごとや要望等を傾聴し、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援を見極め、それに対する提案や助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる能力を見極めて、家事の手伝いを通して、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、面会が出来ない状況である為、現状の報告を行い、可能であれば電話にて家族とにお交流を保てるようにしている。他科受診等の支援をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と直接の面会が出来ないが、電話等で関係を保つように努力している。馴染みの場には行く事が出来ないので写真を掲示している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握している。その日の気分により関係性が悪化する場合もある為、職員が仲介する等の関係が悪化せず、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に相談のできるよう、退所時にお伝えし、相談できる環境作りや支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや担当者会議での意向把握のほか、常日頃からの会話や動向にて把握に努めている。また、家族からの情報を基に本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やサービス利用の経過については、入所時やアセスメント聴取時のほか、日常的に把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活パターンや、精神状態、認知症の進行度合いや能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が関係する必要な関係者と担当者会議を開催し意見やアイデアを出し合っている。会議の内容から介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容等は個別記録に記入しており、フロア会やモニタリング、担当者会議等で職員間で情報共有しており介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて様々なニーズへの対応に対して、職員間でも様々なアイデアがあるが、コロナ禍において実践出来ないことが多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や発掘に努め、本人の生活を豊かにしていきたいと望んでいるが、コロナ禍において実践出来ないことがほとんどです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所で良好な関係を築いており、適切な医療を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師が配置されており、同敷地内の他の事業所にも看護師が配置されているため、受診の必要性や緊急時の対応等も含めて看護師へ伝達できる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には地域連携室他、病院関係者との情報交換や相談が出来ており、生活上の留意点等の助言を行う事が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針は、入居時に説明と同意を頂いている。重度化した際には、終末期のあり方を再度確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は勉強会等で行っている。対応に困ったときは、看護師や医師の指示を仰ぐように全職員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	訓練はコロナ感染予防の為、施設全体では実地できていないが、グループホーム内での訓練は行っている。消防署からの防火、防災のリモート講習会へ参加。又台風等の災害が近づいている時の事前備えや対策を職員間で協力して行っている。毎日、コンセント周囲の安全確認を行って利う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを心掛けている。間違った言葉かけがある場合には、職員間同士で、注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、その都度、希望を聞いている。表現しにくい場面でも、言動の観察と選択肢を準備し出来る限り、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事故や怪我等の恐れが高いもの意外は、業務優先でなく、入居者一人一人のペースにあわせて、希望に添うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や衣類等、本人の好みの物やお洒落が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍において一緒に食事の準備や片付けを行う事が、難しくなったが、手袋や消毒等の感染予防を行い、本人の好みや能力を活かして、下ごしらえやお盆拭き等を一緒に行う事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などをチェックし、本人の嗜好品を取り入れたり、自力摂取が出来るような言葉かけや、能力に応じた介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、本人の能力を活かし、歯磨きを行ない、不十分なところは手助けを行っている。必要に応じて看護師や医師へ相談し、歯科往診を検討している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンや排泄動作を記録し、排泄の促し、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	疾患や生活習慣を理解し、飲み物や運動を促し、出来る限り下剤の服用を控えるように予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全入所者が介助を要するため、人間的にも一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を行う事が困難。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を確認している。それぞれの希望の寝具や就寝時間に合わせ安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方分を、トリプルチェックしている。その際に薬情と見比べ、目的や用法用量、副作用についての確認が出来ている。服用の確認や症状の変化についても記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	契約やアセスメント聴取、日々の会話から生活歴や楽しみ事などの聞き取りをしており、コロナ禍で出来る限りの気分転換や楽しく過ごすことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外部との接触を避けているため、地域の方や家族と協力して外出する事は出来ないが、コロナの感染状況に応じて、希望者には、運動も兼ねて戸外への散歩を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しているが、入所者同士のトラブル回避の為、小額であっても事務所で管理している。必要時には職員の支援を受けながら、お金を所持し使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されるときに電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる日光への対応やテレビ音など不快感がないよう配慮している。外観や花、絵、イベント、等で季節感を味わえるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席以外にも、テーブルやソファ、畳等、くつろげる場を作りや、個人の性格を把握し、思い思いに過ごせる居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの家具を配置したり、親しみのある方の写真を貼付する等の、本人、家族が居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレ、洗面所の場所を分かりやすく大きく掲示している。		